

熱中症防止に伴う大会運営について

大分市サッカー協会社会人委員会

<趣旨>

選手の生命を守り安全に運営するにあたり、大分市サッカー協会社会人委員会が主催する大会について、下記の通り基準を定め大会を運営する。

1 JFA「熱中症対策ガイドライン」の遵守を必須とする。

①ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。

※全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペースを確保する。

②ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。

※天然芝等の上でも、養生やバケツの設置等の対策を講じて会場管理者の了解を得る。

※了解を得られない場合は、ベンチ直近箇所にスポーツドリンク飲水場所を確保する。

③審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

④熱中症対応が可能な救急病院および当直医の確認しておく。

⑤「Cooling Break」（クーリング ブレイク）または飲水タイムを設ける。

2 「Cooling Break」とは

前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に3分間の「Cooling Break」を設け、選手と審判員は以下の行動をとる。

①日影にあるベンチに入り、休む。

②氷・アイスパック等で身体(頸部・脇下部など)を冷やし、必要に応じて着替えをする。

③水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。

「Cooling Break」の留意点

・原則として試合の流れの中で両チームに有利・不利が生じないようなアウトオブプレーの時に、主審が判断して設定する。

・戦術的な指示も許容する。（飲水タイムと異なる）

・チームが、身体を冷やすための器具を持ち込む際は、事前に大会運営責任者の了解を得る。

・審判員は「Cooling Break」の時間を遵守するため、試合再開時には選手に速やかにポジションに戻るよう促すと同時に、出場選手の確認を行う。

・「Cooling Break」に要した時間は「その他の理由」によって費やされた時間として前後半それぞれの時間に追加（アディショナル タイム）される。

・「Cooling Break」を設定する場合は試合前またはハーフタイム時に両チームに伝達する。

「飲水タイム」の留意点

- ① 下記の 6の条件をこえた暑熱下の試合では、前後半それぞれの半分の時間を経過したころ（30分ハーフの場合は15～20分ころ）、試合の流れの中で両チームに有利、不利が生じないようなボールがアウトオブプレーのときに、選手に指示を出して全員に飲水をさせる。もっとも良いのは中盤でのスローインのときであるが、負傷者のために担架を入れたときや、ゴールキックのときも可能である。
- ② 選手はあらかじめラインの外におかれているボトルをとるか、それぞれのチームのベンチ前でベンチのチーム関係者から容器を受けとって、ライン上で飲水する。
- ③ 主審、副審もこのときに飲水して良い。そのために第4の審判員席と、第2副審用として反対側のタッチライン沿いにボトルを用意する。
- ④ スポーツドリンク等、水以外の飲料の補給については、飲料がこぼれて、その含有物によっては競技場の施設を汚したり、芝生を傷めたりする恐れもある。大会主催者が水以外の持ち込み可否及び摂取可能エリアについて、使用会場に確認をとって運用を決定するので、その指示に従って、飲水する。
- ⑤ 飲水タイムは、30秒から1分間程度とし、選手にポジションにつくよう指示して、なるべく早く試合を再開する。飲水に要した時間は、「その他の理由」により空費された時間として、前後半それぞれに時間を追加する。
- ⑥ 環境温度の測定値が得られないときは主審の裁量によって決定するが、安全を重視するという観点から判断することが重要である。また、時間の経過にともなって環境条件がかなり変わった場合は、飲水を実施するかしないかの判断をハーフタイムに変更してよい。

JFA「熱中症対策ガイドライン」

